

全学斗争、事務局多数派のセクト主義的排除策を 粉碎し、「大学立法粉碎」、「教育大斗争勝利」へ 斗い抜け！

教育大全学学生共同會議

全学斗争に結集するすべての学友諸君へ

5月25日以来の全学斗争ハ局多数派系轟君による、全学斗争としての統一行動の破壊策動に対して、断然科撃するべきことを訴える。

〔1〕 5月23—5月25に発生した事態

①既に知つておるようによつて、5月23大學生立法粉碎斗争は全部般階では、早大での決起集会と、昭大での決起集会と分裂していったが、21日の事ム局会議にて、全学斗争としての大學生へ行くが、教育大綱階では、全学斗争として秋一した決起集会をもつ二ことが確認された。

②そして、我々は、23日、全学斗争の決起集会のはじめ前に、全学斗争の独自集会をもち、その後、統一

集会に参加しようとした。ところが、事ム局長をはじめとする事ム局多数派系諸君は、我々の独自集会に対して「分裂集会」とあるといつて口実の下に我々を暴力的に排除し、全学斗争の決起集会を強行したことである。

③そして、5月25日、事ム局会議から、我々の支持する事ム局員を、一ヵ月通告(しかも口頭での)をもつて、しめだし、更に、その后的クラマ代表者会議に参加し、25日以来の事態を明らかにしてしまった當友に対するこれまで暴力的排除策をなしでいたのであつた。しかも、これらのことに対し、府ら、クラ代で明らかにすることなく、クラ代での事ム局の基調報告においては、25日には若干の誤認があつたこと全く隠蔽しようとしたのであつた。

(2) 5月23—5月25の事態の本質は何か

全学斗争ハ局多数派由、我々排除の理由として次の二点に云つてきただ。

革マル派の場合、68年と69年学園斗争を破産したと評し、清算したと評し、アリニエス立場で今后へ運動をやろうとしている。しかし、教育大學生斗争で、今后の方向性として確認されてきたのは68年と69年の学園斗争のさりひりした高度の真をひきつゞ發展させた。これを全学全共斗と連繋して發展させる。この立場を自己批判しながら取り除く。

2. まず誰が誰をして排除するのかが全く不明確なこと。

誰か——車ム局ちのか? (しかし、それは我々の支持する車ム局員を排除した上で車ム局多数派の

ボス交代決めたものでしかない)。車ム局を構成して13政治組織なのが? それとも全学斗争か? また、誰を排除するのか、ここには革マル派という二通りしか、全学斗争という大學生斗争組織と政治組織を二重映しにした談論である。我々は革マル派の方針を正しくと考え、またその指導を受けたが、しかし、先進的な自活会員として全学斗争などの大衆的な場では、政治組織の名を云うことばセクト主義である、とさえ云つてゐた共学局系諸君などだ。

2. いかにして排除するのか、

ヨニに事ム局多数派は、事ム局の正式な決定でもなく、また当事者である我々を含めた大衆的討議もなし

に、否、それを暴力的に压殺へクラ代、事ム局からの我々の暴力的排除(?)し、あくまでもこれを隠蔽する形

でがそうとしているのだ!

3. また、路線の違いとして彼らが云うところの「68年(69年)の学園斗争のさりひりした高度な質」と「69年(68年)の学園斗争のさりひりした高度な質」との違い、えの立場」とはども違うが対立なつかを明らかにせず、自らの路線を「高度な質をひきつぎ發展させる」ものとし、そして、我々はそのような「高度な質」を「めりこみ」として「ヨニから悪」だとしか言つては「ない」。全く、自己の路線の「正当性」を立証する二つの立場の違ひに云つて、くわうものを排除するといふので、全くのセクト主義そのものが云はならないのかも、まさに我々は、彼らとの路線の違い、対立を、彼らが云ふ二とおそれも云はない。否、今后の教育大斗争の前進のためにも、この対立を鮮明にし、彼らの破産を毎日のもとに曝け出しこゆかねばならぬと考える。まさに彼らが美化してやまないところの、安田攻防戦に備へられる「68年(69年)の学園斗争のさりひりした高度な質」とは、サンデイカリスマ的な、また日本に一聲を与えていくと云つた視角からする帝大解体なる謀略また方針を掲げ、しかもそれにに対する助言を疑惑、反撥に対しては、レーニンの「ニ極分離をもつて工セ理説化したところの「ホーリークム自活会終焉」論によつて、「反革命」と規定し、切り捨て、彼らの孤立化を合理化し、そして戦効隊との武力と丁度権力との対決であると主張し、それを、高

共産黨、現在の日共・民青系の改良主義的・反米民

事、教育政治斗争と創造するかといふ若斗とは無様

甘地平で、帝国主義秩序の破壊と称しこの封鎖

の自己目的化、また、民青系の運動をのりこえた大

衆運動の創造と労派斗争との混同から單なる肉体的

解体に矮小化されたゲバルトの自己目的化、まさに

その当然の帰結として、彼らの「斗争は政府非支

配蔭波の攻勢の激化の前に無防備なものでしかがた

いたのだ！ そしてこのようひ彼らはアル急進主義

者と一應を画して革命的斗争に走つてゐるが、今はお

無期限ストライキと唯一キッコの東大文理部学生友

会であり、また新たに、学園斗争に突入した早大文

会ほじめとした学生反応のだ。にも拘らず、彼らはア

ト、中核派系諸君は、早大においては反戦連合と愈

着し、ひの「ボツダム自治最終吾論」にもとづいて

早大の、8月再度の学生大会を粉碎することすらも

叫びはじめるところまで駆逐し、魔敗しきつてゐ

のだ！ 彼ら言うところの「高度の質」とは二の五

うむ内実に他ならぬものである。

以上見てきたように、彼ら全學斗事務局多數派に

よる我々の排除は、統一行動の原則を踏みにじり、

たゞ自らが多數派であることを利用した全くデータラ

メなものでしかない。がしかし、その背景には、

4・28以降の學生戰裸の新たな流動へ彼らの4・28

斗争の破産と組織的ガタソキ——中核派にあつて

は独自の隊列も今や組みえず、戦後民主主義防衛の

旗を立ちうちよく掲げしカニア集会でのりき、

こうとしている。そして五派共斗内での中核派と下

ントを中心とした反帝アロックとの対立。一方、二

のアントアクロに煽られフツカた構成派は、其勢党

にあつては、ハリモモを中心として他人事のよう

に横改路線の破棄か言ひれ、また統社同にあつては

タ、月早太一文藝學の余波で書記長安東仁兵衛の脱

盟と二分派のみならず、学生プロントの各支部は既

に崩壊状態である——それを見ればになつて陰鬱す

るための排外主義的反全學連、反革マル策動と、そ

の集約としこあつた全共斗と私物化し野合しに、

効力争の餘外が破産。他方「吊鐘が鳴」、たゞの

ものが全學連派の着実な前途との暗躍が対比して決し

て無様ではないのだ。まさに彼らは、こうした全都

的の排外主義的反全學連、反「革マル」策動を、直

接的に教育大にもたらさうと見えなかつて外だ。

145 今後の展望

我々は、当局の授業改革の強化と日共・民青系に

よる「自治擁護」運動の引き返しに直面し困難が局

面にあら教育大斗争の大衆的、革命的推進のために更に大學立法粉碎斗争、安保、沖縄斗争と、社共

のキサキに坑して准し進めて行くためにも、ちがい

125の暴力的排除策動を断じて許すことほどござり

と考える。多

されのみではない。このようむ排外主義的暴力的

排除策動の背後にあら、小アル急進主義派の児

版を重じこしが教育大斗争の革命的推進はありえぬ

い。まさに二これまでの単なる近長線上における再ス

ト、再バリケード封鎖実現と考えることは夫してび

王ないのだ。されば只、形骸化し虚い手も費されるべき目的性も晦昧な、斗争形態の復活でしかないだ

う。それは斗争の永続的推進にとって犯罪的です

らあるのだ！

二の四の全學斗内部の賛イデオロギー状况とその対決と、二の全學斗の破壊策動の現実と対決する二と

三通じてかちどろくでなければならぬ。各クラス

ス決議とからとり、下から斗争を創造すると同時に

事務局多數派による暴力的排除策動への科裸の

クラス決議とからとり、ち、と、二の問題をめぐら

ラス代表者会議の開催を要求していこうではないか。

二のようガオハと通じた全學斗の革命的再構成には、6月後輪最終決定粉碎の斗争を准し進める

ことはけしてできない。尊友諸君！ 二の5・23-125

と教育大斗争の革命的再生の筋節点たらしめていく

うではございか！